踊らな、そんそん！

西部中・１　　近藤　絵瑠

「セイッ！ハッ！」

代表のかけ声に応えるように私たちは、かまえる。頭の後ろから一筋の汗が流れ落ちる。緊張する瞬間。今までの練習の苦しさや厳しさ、できたときの喜びが頭の中をかけ巡り、私の汗となって出てきたかのようだ。

「さあ！祭りの始まりだ！」

今年の夏の気温は全国的に平年より高く、観測史上最も暑くなった昨年に匹敵する暑さというニュースが耳に入った。チベット高気圧と太平洋高気圧が上空で重なり合う“ダブル高気圧”で、三十五度以上の猛暑日が続いたり、地域によっては四十度前後の酷暑になったりする恐れがあるらしい。そんな暑い夏。私には大きな目標がある。それは「にっぽんど真ん中祭り」に、よさこいの踊り子として出場し、一昨年よりもよい成績を残すこと。そして、観ているお客さんたちにこれまで以上の感動をあたえること。もうすぐ今年の夏よりも暑い私の夏が始まる。

よさこいは、小学校一年生から始めて、七年も続けている。もともと母が名古屋のよさこいチームに入っていて、祭りで踊る姿を観て「かっこいい、やってみたい」と思ったことがきっかけだ。今では、母と一緒に肩を並べて、よさこいを踊っている。日曜日に近くの小学校に集まって練習をしている。いつも暑い体育館が今日はさらに一段と暑くなっている。なぜなら、今日から「にっぽんど真ん中祭り」に向けて新しい曲が始まるからだ。

「今までとは違って新しい曲は、すべてオリジナルになる。踊り子も大きくなって一人一人の技術が高まってきているからこそ、できる曲だ。きっとみんなならできると信じている。今までとは違う私たちの演舞をみんなで作り上げよう。」

代表からの言葉に心がふるえた。三年に一度曲が新しくなり、踊りの振り付けや衣装もすべてが一新される。今までは踊り子のメンバー達が、私を含めてまだ幼く、踊ることができない難しい振りもあった。もっとかっこよくて強いチームの人達が踊っているような踊りを踊りたい。でも、人の心を引きつけるような踊りを目指そうと思っても、一人一人の技術が追いつかず、結局難しい振りはどんどん簡単になっていった。しかし、今年は違う。私も中学生になり、他のメンバーも高校生や大学生、社会人など、若い力がそろっている。今までにない踊りができる、新しいステージに進めることができると、代表は私たちに伝えたかったのだ。そう思うと私やメンバーの心に火がついた。「やってやろう」という気持ちで、みんなの心が一つになった。

それからは、いくら体育館の中が暑かろうが練習を続けた。新しい振りを覚えることはもちろん、みんなとタイミングを合わせる体形移動など、メンバー全員で意見を出し合い、難題は盛りだくさんだった。よい演舞にしたいという気持ちとは裏腹に、難しい、できない現実がぶちあたり、心も身体も疲れてきていた。このままで間に合うのか。楽しみだった日曜日が行きたくなくなっていって、焦りと不安でいっぱいだった。

ある日、私はよさこいチームの中で踊りがうまいチーム、強いチームの演舞を動画で見た。ミスをしても笑顔で楽しそうに踊っていた。そこで、私は一昨年のど真ん中祭を思い出した。たくさんの観客の中には、カメラマンやテレビ局の人、そして、真ん中にいるのは審査員。会場には熱気があふれ、様々な音やにおい、息づかいが感じられる。私は緊張のせいなのか、暑さのせいなのか、立っているだけなのに汗が止まらなかった。

「セイッ！」

固まっていた私に代表の声が突き刺さる。これは、始まりの合図。不安や緊張を吐き出すように私も声を出す。

「ハッ！」

そこからはただ必死に踊った。どんな風に踊っていたのかは、あまり覚えていない。音に合わせて、今までの練習を生かし、出しつくした。メンバーとの一体感、音と調和して踊る楽しさ、観客の喝采、すべてが夢の中のような、あっという間の時間。曲が終わり、息が切れて、汗が流れる。その時拍手の中、観客の一人が「よかったよ」と言ってくれた。それから次々に「すごい！」「かっこいい！」と指笛まで鳴らしてくれる人がいた。とっても嬉しかった。自分達の演奏でたくさんの人の心に響いたんだと思った。ど真ん中祭りが終わってから、たくさんのよさこいファンの方々がSNSで私たちの踊りを評価してくれて、よかった、感動したとほめてくれた。私たちの踊りを生で観て感動してくれたことも、SNSで伝えて広めてくれたことも、どれもすごく嬉しかった。そうだ、私は踊りで人を笑顔にできる。ミスなく踊ることばかり考えていたけれど、本当は踊りの楽しさを味わい、観てくれた人を感動させるために、よさこいを踊っているんだ。そう気が付いた。

それから、地元の祭りにたくさん参加して、新曲を踊った。まだまだ完璧ではないし、ミスもたくさんある。しかし、観てくれた人は笑顔になっているし、私自身もとても楽しい。私たちのよさこいはみんなを笑顔にする力がある。

よさこいの発祥は高知市。昭和二十九年に当時の不景気風を吹き飛ばし、市民を元気づけようと行われたのが始まりだそう。今や日本だけでなく、世界にも広がりつつある「よさこい」。私はずっと踊り続けているからわかる。不景気などのネガティブな気風を吹き飛ばすためには、大きなエネルギーが必要だということ。そのエネルギーを蓄えるために、たくさんの練習をして、苦しくても努力しなければならないこと。私はよさこいを始めて知ることができた。そして。エネルギーをためて、不安やネガティブな感情を吹き飛ばした先には、大きな感動が待っていることも知っている。だから、今日もまた練習をする。

「セイッ！」「ハッ！」

今日も酷暑の中、体育館の中に代表の声と私たちの声が響き渡る。

不安も緊張も不景気も

この夏の暑さも

すべてを吹き飛ばせ！

よさこい

踊らなそん、そん！

さあ、楽しい祭りの始まりだ！

6・9